

宇宙政策委員会
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構分科会（第7回） 議事録

1．日 時：平成29年7月20日（木）10：00～12：00

2．場 所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3．出席者

（1）委員

山川分科会長、田辺分科会長代理、青木委員、片岡委員、関委員

（2）政府側（宇宙開発戦略推進事務局）

高田局長、佐伯審議官、高倉参事官

（3）説明者等（国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構）

山本理事、坪井理事

4．議事次第

（1）宇宙航空研究開発機構の平成28年度及び第3期中期目標期間終了時に見込まれる業務実績評価等について

（2）宇宙航空研究開発機構の見直し内容について

（3）その他

5．議 事

山川分科会長 時間になりましたので「宇宙政策委員会宇宙航空研究開発機構分科会」第7回目の会合を開催したいと思います。

委員の皆様におかれましては、御多忙のところ御参集いただきまして、ありがとうございます。

議事に入ります前に、配布資料及び本日の会議の進め方につきまして、事務局から御説明をお願いいたします。

高倉参事官 よろしく申し上げます。

配布資料でございますが、点数は多少多ございますけれども、議事次第にございますように資料1、資料2というのが本日の議題に関する資料でございます。

そのほか参考資料として1から7までがございます。

また、後ほどもしお気づきの時点で過不足がございましたら、お知らせいただければありがたく存じます。

本日の進め方を御説明いたします。本日は前回7月7日の第6回のJAXA分科会におけますJAXAのヒアリングを踏まえまして、28年度及び第3期の中期目標期間終了時に見込まれる業績評価、単年度と今年度が終わった時点での中期目標期間の全体の評価につきまして、皆様方より大変貴重な御意見を賜りましてありがとうございました。

本日は、いただきました御意見を取りまとめたペーパーを用意してございます。そちらが資料1と資料2でございますが、本日はその資料1、2を中心に御議論をいただくこととなります。

本日、JAXA側の御出席も賜っておりますけれども、改めまして御意見の内容の説明をした後に、JAXA側からも少し意見陳述をお伺いした上でさらに質問等ございましたら、まず冒頭にやりとりをさせていただきまして、評価の段階ではJAXAの方、それから一般の傍聴者には御退席を願いまして評価の審議をいただく。このような段取りになってございます。

ちなみにもう御案内とは思いますが、独立行政法人通則法に基づきまして、本日の業績評価については主務大臣が行うことになってございますので、皆様の御意見を賜りつつ、意見をその他の所管である総務省、文部科学省、経済産業省と協議の上で、最終的に評価書を主務大臣の責任において作成をしていく。このような段取りになってございます。

本日の進め方については以上でございます。

山川分科会長 ありがとうございました。

それでは、議事に入りたいと思います。最初の議題は「宇宙航空研究開発機構の平成28年度及び第3期の中期目標期間終了時に見込まれる業務実績評価について」です。まずは事務局から資料について御説明をお願いいたします。

高倉参事官 配布資料のうち本日のメインになりますのが、資料1と資料2でございます。

資料1が先ほど申しました28年度、単年度の評価に関わる御意見を取りまとめさせていただきました。

それから資料2は中期目標期間中の見込評価に関わる意見書でございます。こちらの取りまとめました資料につきましては、皆様方の御意見を基本的には集約したものではありませんけれども、御議論あるいは意見書として取りまとめしていくという趣旨から、改めてJAXA側の自己評価につきまして追認しているといったようなところにつきましては、この中にはあえては記載してはおりません。そのほか、複数の方から同趣旨の御意見をいただいているようなものも集約させていただいてございます。

特に、本日後ほど御紹介しますけれども、御議論いただきますポイントとなりますのは、JAXAの自己評価と委員の皆様方の御意見が若干異なるといったよ

うなところを中心に、御意見の集約をいただければと思っております。

それでは、主に見込評価の資料2を使いながら、資料1も時々参照しながらということで説明をさせていただきます。

まず「法人全体の評価に係る意見」でございますけれども、このあたりは非常に頼りにされる組織になってきている。あるいは非宇宙系産業の企業の参加も増えてきていて、大変評価されるといったような御意見がございました。

一方で、後ほどまた出てきますが「1. 法人全体を通した評価に関する御意見」の真ん中のあたりにありますけれども、年度ごとの評価がBで第3期中期目標期間の見込評価はA。B、B、Bときて最後は全体でAというところは、もしそうするのであれば、きちんと納得のいく理由を付すということが大事ではないかといった御意見がございました。

続きまして、2. の同じく法人全体の評価に係る「翌年度以降にフォローアップが必要な事項」につきましては、これはいわば次の中期目標策定に当たって貴重な御意見として賜るということで、直接法人の評価とは若干趣が異なりますけれども、皆様方から幾つかいただいた意見をこのように取りまとめさせていただきます。

例えばということで、外部との人材交流の観点ということで最初の ① です。

2つ目の ② では、地球規模の課題解決、3つ目の ③ では、非宇宙産業へのイノベーション促進といったような将来の期待について、御意見を頂戴しているところでございます。

続きまして、資料2の2ページでございます。上のほうの ④ 3つにつきましては、引き続き翌年度以降にフォローアップが必要な事項というもので、主に期待だと思えますけれども、こういったさまざまな評価をいただいております。

それから資料2の2ページの真ん中の「3. 長のマネジメントについての御意見」につきましてですけれども、こちらについても主に今後の期待という形で御意見を頂戴しているところでございます。

続きまして、少し飛ばしまして2ページ目の内閣府所管の個別の評価項目に関する意見のところまいります。まず、個別評価項目でございますけれども、ご覧のとおり安全保障、民生、それから科学技術といった大きなくくりで評価を立ててございます。

まず、 ⑤ の「1. 宇宙安全保障の確保」のところでございますけれども、「衛星測位」につきましてでございます。最初の ① にございます、各年度評価としてBが続いた後、見込評価の自己評価はAとなっているところにつきまして、もしAと評価するのであれば、改めて何かもう少し書き込んだほうがいいのではないかとといったような御意見でございました。

続きまして、3ページにまいります。翌年度以降に向けた課題につきましては、幾つか今後の進め方に関する示唆ということではいただいていると理解してございます。

次に3ページの(2)衛星リモートセンシングでございますけれども、こちらは個別の評価というよりも「翌年度以降に向けた課題」ということで、例えば超低高度衛星技術試験機ですとかあるいはMDAといったものについても、幾つか期待感に関するコメントを頂戴しているところでございます。

(3)衛星通信・衛星放送につきましても、リモートセンシング同様、翌年度以降に向けた課題ということ、特に「レジリエンス/ミッションアシュアランス」に関する検討ということについてコメントを頂戴しております。

次の(4)宇宙輸送システムにつきましては、計画・目標を超えて大きな進歩を果たしたということ、ポジティブな評価と考えてございます。翌年度以降に向けた課題につきましても、これもさまざまなコメントを頂戴してございますけれども、主に小型衛星の件ですとか、H-A/Bロケットに関する実績について競争力を強化するといったような、次の目標期間に向けてのコメントと理解をしております。

続きまして、4ページ「その他の取組」でございますけれども、先ほどと同様ではございますが、これまでの年度評価がBということに対しまして、中期目標期間全体がAとなるという自己評価になってございました。これにつきましては、JAXAが積極的に防衛省と連携して設営を進めていくことを理解しているので、Aで妥当だという御意見もございます。

一方で、同じ「その他の取組」の中の翌年度以降に向けた課題の2つ目の、真ん中あたりでございますけれども、やはり各年度の評価がBということでありながら、中期目標期間終了時の見込がAとなることについては、もう少しきちんとした説明が必要なのではないかという、若干この点については議論が必要ではないかと考えてございます。

続きまして、資料の4ページの真ん中より少し下の「民生分野における宇宙利用の推進」にまいります。民生分野における宇宙利用の推進についても、順次衛星測位、リモートセンシングといくわけでございますけれども、衛星測位のあたり、あるいはリモートセンシングのあたりにつきましては、翌年度以降に向けた課題というところを中心に、今後のJAXAのあり方に対する期待、希望について、幾つかコメントを頂戴してございます。

例えばリモートセンシングにつきましては、アジア諸国での社会課題解決といったところについても非常に今後の期待感が持てるということでございます。

翌年度以降の課題につきましては、4ページの下から5ページあたりですが、同じく国際協力という観点、それから国際戦略、技術的にはさらに空間分解能

を上げていくといったことも重要であるけれども、時間分解能もより上げていくといったことについて、より世界をリードしていただきたいといったコメントを頂戴してございます。

5 ページ目、真ん中の「衛星通信・衛星放送」も、今後の国際競争力に関する拡大促進についてのコメントをいただいております。

続きまして「3. 宇宙産業及び科学技術の基盤の維持・強化」でございます。

「(1) 宇宙輸送システム」でございますけれども、評価としましては、最初の にごございますように、民間に打ち上げ輸送サービスを任せることにより、国際競争力が拡大したと判断できるという前向きなコメントがございました。

「(2) 宇宙科学・探査」につきましては、これは例の「ひとみ」に関係して、特に見込評価のところでございますけれども、途中段階でC評価が含まれているという中で、自己評価における見込評価はAだったわけでございますが、期間全体の評価ということを踏まえれば、やはりBが妥当ではないかということ。

一方で次の にごございますように、さまざまなプロジェクトの成功によって国際的にも評価されているという前向きなコメントもございました。

また、最初の と同じような観点かもしれませんが、途中段階、平成27年度でやはりCがあったということもあるので、全体をAということについては、もう少し何らかの理由なり書き込みが必要ではないかといった御意見がございました。

6 ページ目の一番上も同様でございますけれども、やはりX線天文衛星「ひとみ」の喪失に関する中期目標期間中における評価という意味では、なかなか高評価は難しいのではないかといった御意見でございました。

ちなみに、単年度の評価につきましても少し御紹介をいたしますと、ここにつきましては、適切だということだったわけですが、やはり中期目標期間全体で見たときにどうかといった論点があると思っております。

それから「有人宇宙活動」につきましては、平成28年度の評価、これは資料1の3ページの下になりますが、こちらはSが妥当ではないかといったコメントを頂戴してございます。

一方で、資料2の6ページの真ん中にあります「(3) 有人宇宙活動」のところについては、幾つかピックアップしますが、例えば一番上の 新型宇宙ステーション補給機「HTV-X」につきましては、平成28年度に開発に着手し、平成29年度に詳細設計を行うということになってはおりますけれども、「HTV-X」の重要性に鑑みて評価手法を設定して業績実施評価を実施すべきであったと。

それから次の では、B評価も含まれるこれまでの単年度評価の履歴から考えて、見込評価の自己評価がSになっているわけでございますけれども、やは

りSではなくAが妥当ではないかといったようなこと。

さらに観点としては、新興国との協力関係に関するさまざまな活躍ということで、若田宇宙飛行士の件についてもコメントを頂戴していますが、前向きな評価をいただいています。

一方で、やはり過去3年度のB、A、Aという年度評価からすると、SではなくAが妥当ではないかといったようなところ。これも本日の御議論の論点になるポイントであると思います。

続きまして、資料2の6ページの下のほう、「(4)宇宙太陽光発電」でございます。こちらは単年度も見込評価も特にコメントはございませんでした。

それから「(5)個別プロジェクトを支える産業基盤・科学技術基盤の強化策」ということで、こちらの特許出願や受託研究案件が増えたことについて、また、先端的な研究を行いつつ、コスト削減を実施したということで非常に前向きな評価がある一方で、次の にありますように、同様に見込評価につきましては、年度評価がB、Aという流れの中で中期目標期間全体に対してAとなっていくことについては、より丁寧な説明が必要ではないかといったコメントがございました。

続きまして「5.横断的事項」でございます。

(1)利用拡大のための総合的な取り組みというところで、こちらも見込評価ということではJAXAの自己評価がAになってはいますが、最初の では、今後はアジア諸国を一体とした衛星利用を働きかけるといような期待感のコメントがありましたが、次の にございますように、同様の論点ではございますが、中期目標期間全体としてAというのは、各年度の年度評価がBであったことを踏まえると、どういう説明になるのかということについては、やや慎重な検討が必要ではないかということが言われております。

一方で次の につきましては、同様に見込評価をAとするにはかなり明確な説明が必要だということではあるけれども、判断としてはAでもいいのではないかといったようなコメントを頂戴してございます。

8ページ「調査分析・戦略立案機能の強化」というところで、こちら直接の評価というよりも翌年度以降の期待ということをいただいております。

「(3)基盤的な施設・設備の整備」のところにつきましては、最初の でコスト削減も達成したことは高く評価できるというものの、次の にございますように、各年度評価がBで中期目標期間の見込みがAとなることについて、やはり全体としてAとするだけの説得力があるものにする必要があるのではないかと。ややそこは慎重な評価と受けとめております。

一方で、次の に先ほどと似てはおりますけれども、やはりそこは明確な説明は必要であるもののAということでもいいのではないかと。ところで、若

干評価が分かれているところではございます。

「(4) 国内の人的基盤の総合的強化、国民的な理解の増進」というところについては、前向きなコメント、御評価を頂戴してございます。

それから8ページの下「(5) 宇宙空間における法の支配の実現・強化」につきましても、こちらは大変国際的にすばらしいという評価を頂戴しているところでございます。

9ページに移りまして、「国際宇宙協力の強化」でございます。こちらにつきましては、見込評価のところは2つ がございますけれども、特に下ののところにつきましては、幾つかのアジア太平洋宇宙協力機構における中国と国連宇宙部の役割と位置づけを踏まえまして、アジア協力についての非常に前向きな評価をいただいております、自己評価ではAなのですが、むしろ評価はSでもよいのではないかというコメントを頂戴してございます。

「(7) 相手国ニーズに応えるインフラ海外展開の推進」というところでございますけれども、こちら宇宙産業の成長の寄与という観点で前向きなコメントを頂戴してございます。

最後のページになりますけれども、「(8) 情報開示・広報」も今後の事業にかかわる貴重なコメントをいただいているということではございますが、個別の評価のところについては、現状の自己評価を是認していただいているということではないかと思われまます。

以上、雑駁ではございましたが、論点になりそうなところを中心に御説明をさせていただきます。

以上です。

山川分科会長 ありがとうございます。

ただいまの説明を踏まえまして、JAXAから補足説明等がございましたら、お願いいたします。

JAXA それでは、年度評価がB、B、Bに対して見込評価がAというもの。また、年度評価にCを含む項目でも見込評価がAというものがあるということについての総論的な御説明をさせていただきたいと思ひます。

JAXAにとりまして、見込評価の自己評価というものは初めて行うものでございました。見込評価のファイルを開いていただいて、4ページに評価の手順を書いておるのですけれども、左下に担当理事/部門長による評価の後、理事長によるヒアリングと理事長による評価といった手順で進めたのですが、理事長によるヒアリングの際に、年度評価を行うときには対前年度との比較といったことでの評価をよくやるのではないかと指摘がありました。

つまり、この見込評価は5年間を見込んだ評価になるわけですがけれども、前の5年間、前の中期目標期間との比較というのも考慮をする必要はないのかと

いう指摘です。その指摘を踏まえてどのように対応するかを検討したときに、
評価区分は4ページの右上で引用していますように、総務大臣決定の指針を使
っております。これに基づいて各主務大臣が決める評価の基準も同じ文言が使
われていると思いますが、具体的には5ページにありますように、研究開発の
業務に関するものは左側。研究開発以外のものに関しては右側という、こうい
うようなものが評価区分の表現になります。

右側の研究開発以外の業務は、中期目標管理法人のものを準用するという形
ですけれども、ここは中期目標における所期の目標の量的なものと質的なもの
との比較で評価をすることとなっておりますが、左側のほうでは国立研究開発法人
については、まず国立研究開発法人の目的業務が第一にあって、2番目に中長
期目標があって、さらに「等」ということで幅広くいろいろなことを勘案して
ということが明記されているのではないかと理解しております。

なお、この総務大臣決定ですけれども、これはもともとは内閣府の総合科学
技術・イノベーション会議が平成26年7月17日に決めた「研究開発の成果の最
大化に向けた国立研究開発法人の中長期目標の策定及び評価に関する指針」と
いうものと全く同じだと理解しております。

先ほどの理事長の指摘をどう考えるかというときに、この「等」に当たるも
のとして各項目に共通する考え方として、前中期目標期間の業績と今中期目標
期間の業績の比較を考慮することもあり得るかと考えたわけでございます。

ただ、もちろん法人の目的業務は期間を限らないでかなり連続的なもの、ま
た中期目標期間は特定の期間のもの、そこで判断するのが基本であるという
ことはそのとおりでございますので、そういう形での評価が中心となるという
のは理解をしております。ただ、各年度において顕著な成果と言えないもので
も、中期目標期間を通じて成果を積み上げてきたことで顕著な成果が得られる
と言えるようなものがあると評価できれば、仮に年度評価がB評価ばかりであ
ったとしても、見込評価はA評価とする。特に、メジャーではないかかもしれな
いのですが、前中期目標期間との比較という点なども含めて総合判断するとい
うことで、自己評価についてはそういう判断をしようということ。理事長の思
いも踏まえて、JAXAの中での自己評価ではそういう考え方をとったというこ
とがございます。

もう一つ、過去の年度評価にC評価、いわゆるより一層の工夫、改善が期待
されることが含まれる項目についても、C評価となった事象を改善した
上で中期目標期間を通じて見た場合、トータルの評価でどう考えるか。

また、1つの評価項目の中には複数の内容や事業を含んでいる中で、1つの
事案のC評価が、仮にほかの事案の成果がよかったとしてもその評価項目全体
にはC評価を引きずってしまうという場合もあったということも考慮した上で、

やはり評価項目全体として、しかも中期目標期間全体としての自己評価として考えたかどうかということで検討いたしまして、自己評価としてはAにしたものもある。そういう評価を行ったものがあるというものでございます。

総論としては、我々は自己評価の考え方はそういう形で進めたというのが実情でございます。

個々の項目については、そういう思いの中で我々としては自己評価書の中にそのような、A評価に至った理由はなるべく書いて御説明したつもりでありますけれども、まだ不足している点があるという御意見も多かったようにも思いますが、またそこは個々の御指摘があれば、補足で御説明させていただければと思っております。

総論としては以上でございます。

山川分科会長 ありがとうございます。

今の御説明と前回のヒアリングの両方を踏まえまして、御質問を受け付けたいのですけれども、まず私から議論のきっかけとして、私がどう考えているかということをお話しさせていただきたいと思えます。もし私の認識が事実と違うようでしたら、ぜひ訂正していただきたいと思えます。

まず独立行政法人の評価に関する指針、参考資料7の総務大臣決定をよく読んで、なおかつ今のJAXAの資料の評価基準について読むと、例えば各年度の評価は対前年度に対する評価ではないですし、ましてや中期目標期間全体の見込評価も対前期の中期目標、中期計画と比較してどうということにはなっていないわけです。ですから、JAXAの中では理事長がそういうようにおっしゃったということで対応されているかもしれないけれども、独法評価制度としてはそのようには私は読み取れないので、あくまでそれはJAXA内の独自の評価基準であるというようにしか思えないです。

これが仮にJAXAの中の評価委員会であればそれで結構ですけれども、少なくとも内閣府のJAXA分科会に関しては、最終的にはほかの4府省あわせて判断されるものですが、いずれにしろ私としても対外的に説明できなくてはならず、そういった意味で、説明いただいた評価基準で年度評価がB、B、Bと続いたものを見込評価でAにしましたといったことはできないと考えております。それがまず1点目です。これが違ったらぜひとも修正していただきたい。

それからもう一つ、年度評価にCが入っていて、その項目の中にはいろいろな項目があり、幾つかは成功しているものの1つだけが失敗したためにCとなっているけれども、全体として考えればプラス面もいっぱいあるので評価してほしい、と先ほど聞こえたのですが、今回の宇宙科学に関しては、Cという部分は宇宙科学全体にとっても非常に大きな比重を占めていたものに対してCと評価されたわけですから、その説明はやはり当たらないのではないかと考えて

おります。

以上、2点。後半は1つの例として説明いたしましたけれども、そのように私は考えているのですが、まずはそのあたりはいかがでしょうか。

JAXA 最初の点につきましては、対前中期目標期間との評価を主に捉えたということは決してありません。そこも一部に入れたということで評価書の中にそういった記述、前中期目標期間はこう、今中期目標期間はこう、と書いたところが、ある程度はそこに基づいているということで、あくまでも評価はこの中期目標期間の見込みです。4年間と今後見込まれる1年の計5年間の中で何の成果が出ているかということで、トータルとして最終的に判断をしていることは事実です。ただ、この5年間で判断するとき、その大きさはあまり大きいものではないと思っておるのですけれども、過去の中期目標期間と比べどういう変化があったかということはやはりよく考えた上で評価すべきだという理事長の思いを考えて、この記述の中にはそれを入れているということです。

ただ、この我々の評価記述の考え方が全てに妥当かどうかとか、総務省の指針がそのように読むべきものかということについては、我々はそういうことを決して申し上げるつもりはありません。今回の見込評価で初めて行った自己評価の中では、そういうものを考慮の一部には入れたということです。その上で評価書の記述もちょっとそういったところで書いたところがあると御理解いただいて、あくまでもこの4年間ないし5年間で判断するということについて、そこでの実績で評価するということについては、全くそのとおりだと思います。

山川分科会長 もう一つつけ加えると、一般的にある事業なり研究でもいいですし、ある種の事業をやってどんどん実績が積み上がって行って成果が出てくるというのは、ある意味当然なのです。ですから、前年度あるいは前中期目標期間と比べてより進んでいるというのは、ある意味当たり前のことであってそうなるはずなのです。それまでの実績に基づいてやっていくというのは、JAXAに限らず一般的な組織としてそういうことになると思うのですけれども、残念ながら独立行政法人の評価の基準、指針としてはそういうことではなく、要するにあらかじめ立てていた目標に対してどうであったかという評価になってしまいうわけです。だから、相対としてはよくわかるのですけれども、この分科会がよって立つところの指針というのは、残念ながらそうではないと思っております。

JAXA 1点よろしいでしょうか。例を2つほど挙げたいのですけれども、安全保障に対するその他の取り組み、これは防衛省との関係、それから利用拡大につきましても、中期目標期間中にJAXA法が変わったという説明をさせていただきました。先ほどお話がありました、評価指針の25ページ、Aと評価するという根拠のところに顕著な成果が創出できたかというところと、加えて将来的

な成果の創出が期待されるかという部分があります。この将来的な成果の期待ということが、過去の中期目標期間と今中期目標期間を比べたときの差分から、さらに将来の中長期目標期間に向けて成果が期待できるというような意味合いに捉えていただくことがもし可能なら、中期目標期間を比較したということ言葉をかえると、将来に対する期待というようにもとれないかなという一つの話です。

具体的には、先ほど申し上げました防衛省の話は、まさに宇宙の歴史の中で非常に急激に変わった話でして、今中期目標期間の作業が将来に向けて非常に大きな成果が上がりそうだというようにも我々としては捉えていますし、利用促進についてもやはりJAXA法改正で加わった6号業務、JAXA法が変わってかなり民間からの要求をお聞きするような話は、確かに現在のものよりはもう少し先の将来に対して期待をどう御評価いただくかというところもあわせて加味いただければ大変ありがたいと思います。

山川分科会長 今、2つ挙げましたけれども、もう少し具体的にお願いします。どの項目ですか。

JAXA 「 1 . (5) その他の取組」というところは、安全保障に対するその他の取り組みです。そこでは、主として防衛省との協力がどうだったかということを中心として主張させていただいております。防衛省の取り組みの中には、例えば新しくセンサーの協力を始めました。これは明らかに2020年に衛星が打ち上がるという、将来に対するある種の見込みがあります。

さらにはSSA(宇宙状況把握)の設備につきましても、宇宙基本計画にもありますとおり、2030年代前半までには整備するということが規定されているので、明らかに2034年までに防衛省と協力して1つの設備ができるといったような将来の見込みといってもかなり具体的なものがあるのではないかと考えております。

それと「 5 . (1) 利用拡大のための総合的な取組」というものがあります。これも繰り返しですけれども、宇宙基本計画においてかなり利用が重点化されたり、JAXA法自体も企業の求めに応じて対応しないといけないということが明記されたりしたところでありまして、このあたりにつきましては、この2、3年の間の成果というよりは、将来に向けた成果という観点で御評価いただければ大変ありがたいという趣旨で発言しました。

山川分科会長 それを伺って不思議に思うのは、そうであれば、なぜ平成28年度の自己評価をAにしないのですか。

JAXA 防衛省との関係や利用の促進というのは、ある特定の年度にステップ関数状に成果が出たというのは、現実としてはありませんでした。ただし、冒頭にありました、過去何年かと比べるとかなり大きな動きがあったということ

から、外挿と言うと失礼なのですから、将来的な見込みとしてどう見ていただくかというの、これは我々のお願いではありますが、最終的には委員会の御判断にお任せしたいと思います。

山川分科会長 お気持ちはわかるのですけれども、もう一回申し上げますが、評価を対外的に説明する必要があります。もし年度評価がB、B、Bと続いて見込評価がAになったとしたらそれを説明する必要があり、極論すれば、単純にAやBの並びをもって説明する必要があると思うのです。そういった意味では、今の意図はわかりますけれども、そうですかと言うわけには個人的には思えないところがあります。

JAXA 繰り返しですが、そこは我々は最終的には委ねる立場なので、これ以上は御発言を控えたいと思います。

田辺分科会長代理 やはり基準に関するコンセンサスというのは持っておいたほうがよくて、JAXAのほうでお考えの基準というのと、独法、それから研究開発法人等々の中で求められている評価の基準というものがどういうものであるのかということにずれがあっては、あまり評価としてもうまくいかない可能性がありますので、そのところはやはりきちっと柱、軸をつくっておいたほうが良いということでございます。

私自身は、山川分科会長の考え方にほぼ賛成でございます。つまり、この2つの時点を見てどう前進したかという評価ではなく、計画・目標に対する評価という形になっているというのが山川分科会長のおっしゃりたいことだと思うのですけれども、そうやらないとやはりまずい。計画・目標どおりいったところで標準がBですから、計画・目標を超えた結果として評価が上がっていくのは当然なのですけれども、その段階だけだとB評価がスタンダードになっているというのは、総務省の出している評価の基準としてはそう考えざるを得ないというのが1点です。

それから2点目は、いろいろ試みているところで外挿というの、も分かるのですけれども、ただ評価はやはり実績に対する評価なので、基盤を作ったということで評価するのはいいのですが、その基盤の上に何がなりそうかという期待に関する評価では必ずしもない。それは実現したときに評価すればいいことであり、基盤をつくったこと自体が素晴らしいという時は評価にはなりませんけれども、その上にこういうのができそうだというそのものを評価するやり方というのは、ちょっとまずいのではないのかと、思っているということでございます。今流行の言葉で言うと、説明責任というのがお互いに生じますので、そこはやはり共通の理解として考えざるを得ないし、はっきりさせておかざるを得ないと感じているところでございます。

山川分科会長 ありがとうございます。

せっかくJAXAの方がいらっしゃいますので、ほかに委員の方々から何かありますか。

片岡委員 私は初めてなものですから、多少不慣れなところがあるのですが、おっしゃっていることは安全保障の部分でも格段の進歩をしたとのことですが、年度評価というのは、対前年度評価ではなく、中期目標の中でのその年度の評価ですよね。

どうしてもやはり山川分科会長がおっしゃっているように、年度評価が中期目標の中での評価であり、対前年度評価でないということになると、どこかの年度でAを立てなければならないような気がするのです。それで、Aの中身が中期目標として大きいものであり、見込評価としてこう、というような説明がどうしても必要になるような気が私もしています。何か工夫ができないかという感じなのです。

JAXA 次期中長期目標期間に向けて、今、いろいろな中期計画の見直しにかかっているのです。次期につきましてはもう少し評価をしやすいような項目なり、あるいは評価軸なりを議論していきたいと思っております。

最後に1点だけ繰り返しののですが、総務大臣決定の参考資料7の25ページにS、A、B、C、Dの定義が載っていますけれども、この定義に沿ってやはりやるというのがおっしゃるとおりだと思います。25ページのAの欄の末尾を、我々はどういうことをもってこの将来的な成果を勘案すればいいのかというのが、今後の御相談といえますか御指導いただかないといけないのかなと思うと、我々の考えていたものとは違うということかもしれません。

高田局長 質問する立場ではないのですが、28年度の評価をAにするという議論はなかったのですか。今の基準の中での悩みは、ずっと年度評価がB、B、Bできて、将来の期待を中期目標のスパンで見てもA、というロジックですね。

今後を期待するならば、経済成長もそうですが、急に来年に伸びるのではなくて、徐々に伸びていくように自己評価のところである、という議論はあまりなかったのですか。

JAXA 非常にサポート的な御意見でありがたいところなのですが、年度評価は基本的にここに書かれている中期目標、それから評価軸という表記がありますので、それに沿って考えました。そのときに、ここの評価軸あるいは中期目標もそうなのですが、利用促進とか安全保障絡みにつきましては、なかなか定量的な記述になっていないので、Aというのは先ほど申し上げましたとおり、顕著な成果が出るというのが基本だとすると、なかなか年度単位で成果を上げるというのは難しかったというのが実情です。

JAXA どうしても年度評価は過去の年度評価に縛られるので、過去の年度評

価と何か質的に違ったかという説明がしづらいということです。

高田局長 見込評価のクライテリアは、単年度のものと同じですか。

JAXA 後ろのほうにページに記載があって、全く同じです。

高田局長 同じですね。そうすると私たちが今後直さないといけないのは、見込評価については期待のところの評価も長い期間で見るのだから、そこはもうちょっとウエートを変えるとか、この評価軸の言葉をちゃんと見込評価のものと年度評価のものとして分けておくという議論になっていると、多分JAXAの気持ちと一緒にしたいと思います。

山川分科会長 ただ、年度評価であっても同じですよ。だから、私はなぜそこでそう判断されたのか理解できません。見込評価に関してはというところで、恐らくJAXAは理事長の言葉に引っ張られ過ぎたのだという気がするのです。

JAXA 年度評価は、今までも過去2回、今回3回目なので同じ基準で来て、理事長は第3期を受け持っておられて、第3期というトータルで見るとという評価の視点のときには、こういった点も考慮してやるべきではないかという思いで、我々は受けとめております。

JAXA 特に見込評価というのは初めてだったので、そういう将来も見込んで考えたということです。

JAXA 御指摘のとおり、研究開発の部分は年度評価と見込評価の基準が全く同じ文言なのです。中期目標の事業はちょっと違っておまして、中期目標のほうは研究開発以外のところがあって、指標が対中期目標値と対中期計画目標値または年度計画値というので、年度と明確に書いてあるのですが、研究開発は定量的指標ではないので、全く同じように確かに書いてあると。

山川分科会長 よろしいでしょうか。

この後少し時間がかかりそうですので、議論に入りたいのですがよろしいですか。JAXAに念のため聞きたいことがあれば、この後確認できなくなってしまうので、よろしいですか。

では、これ以降は委員による審議に入りたいと思いますので、申し訳ありませんけれども、JAXAの皆様、そして関係府省を除く傍聴者の方は御退室をお願いいたします。

JAXAの皆様はお忙しいところありがとうございました。

(JAXA・傍聴者退室)

山川分科会長 では、審議を進めてまいります。

今回は多くの項目でいろいろな意見がありそうなので、まず私から評価をこう変えたらどうかというのを一度に全部申し上げて、それを一つ一つたたいていっていただきたい。もちろん、資料1、2の文章の書き方も後でコメントが

あればいただきたいのですけれども、恐らく先に評価のところをやったほうが時間の観点からはいいのではないかと思います。

まず、参考資料5の表に基づいて、変えるところだけを言っていきます。

「衛星測位」の平成28年度評価をBからAにする。上げるということです。

1.のその下の「(5)その他の取組」、これも平成28年度の評価をBからAにする。

そして、下にいて「宇宙科学・探査」のところは、第3期見込評価のところをAからBにする。1つ下げるとのことです。

それから「有人宇宙活動」のところは、見込評価をSからAに1つ下げる。

下のほうに行きまして「利用拡大のための総合的な取組」は28年度評価をBからAにする。

その下の「基盤的な施設・設備の整備」は見込評価のところをAからBにする。

その下の「国際宇宙協力の強化」は28年度評価及び見込評価を両方ともSにする。

ということで、甘めかもしれませんが、いろいろなことを考えて、とりあえず一つのたたき台として、今の8カ所です。

まず、関委員の「有人宇宙活動」の28年度評価をSにしてはどうかということなのですが、先ほどの宇宙科学のお話と一緒になのですが、確かにアフリカ協力は素晴らしいことで評価できるのですが、有人宇宙活動全体の評価という意味での割合を考えると、全体を上げるのは苦しいだろうと私は思って、そのかわりに青木委員の御意見も入れて「国際宇宙協力の強化」というところを上げてはどうかと思っています。

関委員 私が評価しているのは国際協力なので、それで結構です。

山川分科会長 ありがとうございます。

それ以外の点は先ほどのJAXAとの議論の中である意味説明、言及された点かと考えています。これでこの表だけ見た人はぎりぎり納得できる評価かなと思いますが、いかがでしょうか。

田辺分科会長代理 1点だけ。ありていに言うと、のところというのはA、Sというのは、研究開発ですからブレークスルーというのがあり得ますので、それをつけることにあまり異議はないのです。

他方で、それから財務内容はともかく、のところはこれは我々の担当ではないのですが、基本はこれは大体のところは全部Bです。

山川分科会長 そこはなかなかここで議論しづらいのです。要するに甘めだということですか。

田辺分科会長代理 これは甘いです。

ありていに言うと、研究開発法人でも半分以上 A というのは、ほかに私が知っているのは 1 つだけですけれども、そこまではつけていないです。ほかのところと比較する問題では必ずしもないので、やはり同じ研究開発法人の中で見て、大体どちらも成果を出しているなというところで、あまり大きな差があるのは何か違うなという感じがするというのが 1 つ。

それから、逆に普通の独法だとほぼ全部 B が並びます。そうすると、やはり全体として、先ほども言いましたが研究開発法人はブレークスルーがあるので、それを評価するということには異議はないですけれども、中期目標との比較でという先ほどの分科会長がおっしゃったところとどう勘案して、いろいろと考えないといけないなという感じがしているということでございます。

山川分科会長 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

最後にも申し上げますけれども、4 府省のそれぞれの分科会が出してきたものを更に最終的には主務大臣が判断されるということですので、最終的な評価がどうなるかは正直分からないところがありますが、いずれにしろこの分科会としては責任を持ってちゃんとした意見を出していかないといけないなという思いを非常に強く持っています。

田辺分科会長代理 分科会長の御提案には私は納得いたします。

青木委員 私も納得いたします。特に宇宙科学を B にするというところは、そうでなければいけないだろうと強く思います。

関委員 質問なんですけれども、JAXA はかなりいろいろと性格が変わってきていますよね。すごくいろいろな期待も入ってきて、ほかの独法はそんなに性格とか期待が変わってきているのですか。

高田局長 私は経済産業省出身ですけれども、私が思うにいろいろな独法がありました、やはり JAXA は期待が変わってきていると思います。それは宇宙というフィールド自体がすごく大化けしてきていて、安全保障でも欠かせない領域になっていますし、産業利用という意味でもビッグデータの中でもっともっと使えるという感じがあって、そういう意味では割と変わってきているかなと思います。

関委員 そうすると、褒めてあげておいたほうがいいかもしれないという感じがあって、これだけの大きな組織で、しかもそれだけの期待が変わってきているのに対応して、必死になって変えているわけでしょう。だからそれは褒めてあげたいという感じがします。

高田局長 1 つだけ質問していいですか。さっき山川分科会長が . 1 . は B を A にして、 . 2 . の B は B のままですよね。

山川分科会長 はい。

高田局長 意見は何も出てきていない中で A でよいのかということ。測

位衛星のところは、MADOCAはどちらかということ実利用のほうは民生利用であり、むしろJAXAが測位衛星をどういう意味でやっているかということ、まだまだ安全保障よりかはその次の民生利用のフィールドでいろいろと頑張ってくれているという感のほうに印象論としては強いのです。なので、意見は . 1 . のほうで出てきているのですが、現段階では本当は . 2 . のほうなのではないかなという気が、業務現場上の実態ではそんな気がします。

山川分科会長 失礼しました。 . 2 . はこのままだと説明できないですね。B、B、BでAになっていますね。両方Aではないと思っているのですけれども、安全保障か民生利用どちらかという話だとすれば、民生利用のほうではないかとおっしゃっているわけですね。

高田局長 そうでないかという気はしています。ただ、これは意見が片方だけ出てきて片方だけ出ていないので、実態としてはJAXAはそれをおそらく一体的にやっているという、そういう中でもう一回勘案いただければと思います。

山川分科会長 この御意見をいただいているのは青木委員ですね。

青木委員 どちらでもいいのですけれども、資料を読んだ限りで前回の御説明の限りでは、MADOCAによる顕著な成果が出ていて、それが各国のGNSSに比しても優れているというような御説明であったかと思うのです。今「みちびき」で安保向上も図っている折からAでもいいのではないかと思ったのですけれども、民生利用と安全保障での実態がどうなっているのかをよく知っているわけではないので、今のお話を伺いまして迷いがでましたということです。

高田局長 私はJAXAの準天頂衛星への貢献にはすごく感謝はしています。だから、ここでどちらかバランスがあえて違うということならば、民生利用のほうかなと思います。

佐伯審議官 まさに委員の書いていらっしゃるコメントの部分を民生にそのまま入れると、そのほうがむしろしっくりくるように思います。安全保障における衛星測位でMADOCAの成果が特筆すべきものであること、諸外国のPNT衛星と比較するところを見ますと、MADOCAはまさに今、民生利用のほうで使われ始めていますので、むしろ民生利用のほうにこのコメントを入れたほうがしっくりくるかもしれません。

他方、委員がおっしゃった安全保障は、これからまた成果が出てくる場所ですので、次の評価期間になります。

高田局長 あるいはもっと別の話として、ジャミング防止を測位ではどうするかとか、やや違う議論になるかだと思います。

山川分科会長 では、先ほどの訂正をさせていただいて、 . 1 . 安保のほうの「衛星測位」の28年度評価をB、第3期見込評価もB。B、Bにします。そのかわり、民生のほうの「衛星測位」の28年度をAにして、見込評価はその

ままAということにしたほうが良いと判断しましたけれども、よろしいでしょうか。

先ほどの資料1、2の書きぶりも民生利用のところに移していただいたほうがよいでしょうか。今、安全保障のほうに書かれていますので、それを民生利用のほうに平行移動させてということによろしいですか。

青木委員 お願いいたします。

山川分科会長 それ以外に資料1、2に関して、表記の仕方等御意見ありますか。

先ほど私が修正した9カ所それぞれに関して、この文書に何らかの表記が要るのですか。今日の議論を入れてそういう判断に至ったということなのですか。適宜含めていただければと思います。

例えばそれぞれの理由を念のため申し上げると、まず、28年度の「衛星測位」の安全保障に関しては、端的に言うとB、B、BときているのでBであって、そのかわり民生利用に関してはMADOCAの利用が展開されつつあるということでAにすべきではないかということがあります。

「その他の取組」に関しては安全保障に関しては、特にSSA等に関して成果が見られるということで、28年度評価をAにしたということ。

科学探査と有人探査はよろしいですね。もう理由は書かれています。

それから利用拡大に関して、先ほどのJAXAさんの説明を踏まえてそういうように判断したということで、利用拡大ということで成果が出ているのではないかと。

基盤的な整備に関してはB、B、BなのでB。

国際宇宙協力は青木委員と関委員の御意見を踏まえてS。

ということで、一応それぞれ理由は明らかにできるのではないかと考えていますので、それを考慮して資料1と2を少し修文していただければと思います。

高倉参事官 今、分科会長が御発言いただいた方向のニュアンスが出るような形で、全体の意見を取りまとめるという形になりますので、そういった文章に分科会長と調整をさせていただきたいと思います。

山川分科会長 ありがとうございます。

本日はもう一つ議題がありますのでそちらの時間も必要なのですが、28年度及び見込評価に関して資料1、2については、ほかにさらに御意見がございませうか。

では、今日の議論を踏まえて各委員からの御意見も踏まえまして、資料1と2については先ほどのように一部修正した上で、当分科会として決定したいと思います。修正につきましては私に御一任をいただけますでしょうか。

(「はい」と声あり)

山川分科会長 ありがとうございます。

次の議題は、前回のヒアリングでも少し話題に出ましたけれども、「宇宙航空研究開発機構の見直し内容について」でございます。本件は業務実績評価と同様に各府省の審議会での意見を踏まえて、次期中長期目標策定に向けて主務大臣が作成するものでございます。

前回のJAXAからの御説明も踏まえまして、主務省の事務局にて案を作成しているところですので、まずは事務局から現状の説明を受けて、その後に各委員から御意見をいただければと思います。よろしくお願いたします。

高倉参事官 ご説明がありましたとおり、見直し内容は主務省庁でつくるものでございますが、審議会の意見を聞くということで皆様方からのコメント等ございましたら拝聴した上で、各4大臣の責任でもって、8月末ごろを目途に公表することを予定してございます。

見直し内容の役割でございますが、繰り返しになりますけれども、次期中長期目標に向けての大まかな方針ということで、もちろん次期中長期目標、中長期計画はこれからしっかり作る作業であります。それに当たっての指針となるものということで、分量は少ないものではございますが、先日の御議論も踏まえつつ、現在関係府省のそれぞれの審議会でもこれから審議されるということで、調整中ではありますが、私ども主務省の事務方としては、おおむねコンテンツとしてはこのようなところかなという調整具合のものだと御理解ください。

中身でございますけれども、今の趣旨を踏まえましてポイントだけ簡単に御説明をさせていただきます。

次期中長期目標、中長期計画を念頭にJAXAの今後ということでございますけれども、当然ではございますが、宇宙基本計画に沿って業務を行うというようにJAXA法上も書いてございますので、大きな政策目標として宇宙安全保障、民生分野の利用、それから宇宙産業、科学技術基盤の強化といったものをJAXAのミッションとして引き続き政府全体の宇宙開発利用を中核的实施機関として行っていくという、ある種当たり前の内容を冒頭に記載することを検討してございます。

また、昨今の動向も踏まえた次の中長期目標を念頭に置いた幾つかの要素を少し書き込む予定です。宇宙関連2法が成立しますとともに、宇宙産業ビジョン2030が策定されるなど、我が国においても民間の宇宙活動を促進するという大きな方向性。この宇宙産業の活発化が期待されているということから、宇宙産業の振興というのが非常に重要になってくること。

それから前回の御議論でもございましたように、宇宙空間の安全保障上の重要性というのも当然に高まっているということもあって、そういったことにつ

いてもより強調されるべきであること。

これも基本計画に当然書いてあることではございますけれども、宇宙科学・探査分野、新興国の台頭に対して、我が国の研究水準及び国際的プレゼンスの維持・向上ということ。こういったところが強調されるべき項目、方向性ではないかということです。

続いて、こういった従来のJAXAの業務に対してより社会に対するアウトカムを見据えた積極的な企画・提案を行うことで、社会を技術で先導し、新しい価値を創造していくということの記載を検討しています。

それから、法人の業務、組織については、中長期目標期間終了時に見込まれる中長期目標期間の業績の評価、現在まさしくやっていただいておりますけれども、こういったものを踏まえつつ策定を行うこととするということで、以降、具体的な次期中長期目標に向けてのポイントを列挙する予定でございます。

まず、中長期目標期間でございますけれども、宇宙基本計画との長期的な国の施策、宇宙基本計画が10年を念頭に置いているわけではございますが、非常に長期的な視点を含むという研究開発法人の特性を踏まえまして、次期中長期目標期間を7年とすることとしてはどうかと考えております。

それから事務及び事業の見直しとしてでございますけれども、こちらも冒頭ございましたように、宇宙基本計画というのがございますから、それに沿って行うのは当然ではございますが、さらに宇宙基本計画策定からおおむね2年と半年ほど経っておりますけれども、昨今の状況を踏まえまして次のようなことについて、より重点的に取り組み、さらには人材設備基盤、国際連携、国民理解増進といったことを行うということで、4つほどの項目を立てる予定でございます。

1つは冒頭にございましたけれども、民生利用。民間での産業利用の強化。

それから広義の安保といえますか、安全保障分野。防災も含めた広い意味での安全保障に関する安心・安全な社会の実現の研究開発。

3つ目は、科学技術探査といった宇宙科学の推進。

4つ目に航空機関係。

文章全体の量として数ページ程度を想定しておりますので、あまり細かいことは書きませんが、必要な要素、観点が含まれているところが重要かと思っております。

今、こちらのコンテンツにつきましては、関係府省の審議会も含めてこれから御意見をいただくところではございますけれども、例えば細かい書きぶり、あるいは記載の順序といったことも含めまして、私ども事務局としては他の事務大臣の事務方を含めて引き続き協議をしたいと思っております。

それから運営及び組織の見直し、財務内容に係る見直しとしては、ここは本

質的にはこの分科会で御意見をいただく箇所ではないということではあるのですが、すけれども、法人の組織運営ということで、例えば、研究開発機能、プロジェクト実施機能及び本社・共通機能を柱とした体制の整備などがございます。特に関連する事項としては、マネジメントにかかわる事項ですとか、他の機関との協力関係など、こういったことが運営組織の見直しとして検討してございます。

財務内容につきましても、自己資金の充実ですとか、あるいは新たな事業の創出や成果の社会還元を進めていくといったこと検討してございます。

以上、簡単ではございますけれども、大きな方針、方向性という意味で先ほど申しましたように、今後の当面7年を想定してございますが、見越したときに何か大きな視点が抜けているとか、あるいは表現ぶりに違和感があるとか、もし御意見がありましたら、お願いできればと思います。

山川分科会長 ありがとうございます。

それでは、御意見等をよろしくお願いいたします。

田辺分科会長代理 内容ではないのですけれども、一文が長くなりすぎないように、適宜文章を区切ってもらえればと思います。

高倉参事官 わかりました。そういう意味で、読み手を意識して作文したいと思います。

山川分科会長 今、おっしゃった実際の読み手というのは、誰になるのですか。4府省から機構に対して出すと、読み手はJAXAということになるわけですか。

高倉参事官 JAXAであり、総務省の独法評価の委員会にも提出します。

山川分科会長 では、総務省とJAXAですね。

高倉参事官 彼らが何か判断するというものではございませんけれども、通知するというルールになっております。

佐伯審議官 自分たちの意思表示に近いかもしれませんが、これを踏まえながら次の中長期目標期間を考えていきますという表明であり、またJAXAとしてもそういうことを心得ておいてくださいというようなイメージだと思います。

関委員 アウトカムという言葉が出てきましたが、一体何を意味しているのですか。漠然とはわかるのですけれども、もう少し明確にわかったほうがよさそうです。

高倉参事官 わかりました。先生は御専門のとおりでございますけれども、アウトプットというのはある種JAXAの行為なり事業、例えば衛星を打ち上げますといたら打ち上げたことがアウトプットであり、その結果として何か社会に還元する影響をきちんと及ぼしたというのがアウトカムですから、やはりアウトカムとしてきちんと成果を出すのだというニュアンスを出したかったとい

う意図でございます。

関委員 それはわかるのですが、英語をそんなに使わなくてもいいのではないかと私は思っているのです。社会に対する貢献とか影響とかそういうことだと思っっているのですけれども、積極的な意味が入っているのですね。社会に対する貢献とかいうほうが私はよさそうな気がしているのです。

高倉参事官 各省とも御相談にはなりますけれども、例えば「社会に対する貢献を踏まえ」といった具合でしょうか。「見据えた」はそのままでよろしいでしょうか。

関委員 それは「見据えた」のままでいいと思います。

高倉参事官 わかりました。

山川分科会長 内閣府の総合科学技術会議が総合科学技術・イノベーション会議に変わったときと同じような意図がここに、社会の変革という意図が多分あるのだと思うのです。

私からなのですけれども、ここは内閣府の分科会、審議会なので、宇宙基本計画というものを大切にしたいと思っていまして、説明の冒頭で宇宙基本計画の3つの要素、安保、民生、基盤とあったのですから、それ以降の箇所についても、安全保障、産業、科学技術、そして航空の順番で書けばいいのではないかと思います。恐らく、同様に宇宙政策委員会で議論をしてきましたが、「宇宙産業ビジョン2030」に配慮されたのではないかと思います。その意図は非常に重要だとは思っっているのですけれども、ただそれが今回の見直しと同じ時期に出来たことは偶然であって、今後7年を見据えたときにはやはり最初の順番どおりに書いておいたほうがいいのではないかと思います。それが私の意見です。

高倉参事官 今の分科会長の御指摘、実は関係府省との議論の中でもございまして、JAXAへの期待といったときに何を最初に書くべきかということがある一方で、やはりJAXAは宇宙の中核的な実施機関であり、法律上も宇宙基本計画に従うべしとなっているものについてはそのとおりのほうが素直に頭に入る、といういろいろな御意見があったのが事実でございまして、改めて分科会長からもそのようなコメントがあったと受けとめさせていただきます。

山川分科会長 ほかに何かございますか。

青木委員 運営及び組織の見直しの部分で出てきた「本社・共通機能」はどのようなことなのでしょう。

山川分科会長 よくJAXAの方は「本社」という言い方をするのでありますが、これは正式な呼び名なのですか。そうではないような気がします。

田辺分科会長代理 ヘッドクォーターの意味ですか。

山川分科会長 そうだと思っっているのです。何が正確かわからないのですけれども、本社というのに違和感があるというのがまず1点。

それと、ヘッドクォーター共通機能はそもそも何かという御質問ということですね。

青木委員 そうです。

山川分科会長 基本的にはいわゆる経営機能という意味だと思っております。

田辺分科会長代理 恐らくヘッドクォーターを使うときは、事業部制に近い発想で、事業、事業、事業で共通の個々のところをヘッドクォーターでやるというイメージですね。

山川分科会長 意図がそれこそわからないという御指摘があって、そこが明確になるような表現にさせていただきたいということによろしいですか。

高倉参事官 わかりました。この単語を用いる意図を改めて確認した上で、関係府省とも相談の上、適切な表現に改めるようにいたします。

山川分科会長 お願いします。

よろしいですか。ありがとうございます。この件についても審議を終了したいと思います。この組織、業務の見直し内容案への意見につきましては、本日の委員の皆様からの御意見をもとに作成したいと思いますので、作成に当たっては先ほど同様に私に御一任いただければと思いますが、よろしいでしょうか。

(「はい」と声あり)

山川分科会長 ありがとうございます。

以上をもちまして、本日予定しておりました議事は終了しました。

最後に事務局から事務的な事項について、よろしくお願いいたします。

高倉参事官 本日はありがとうございました。

評価につきまして、分科会長におまとめいただいたとおり、文言につきましても改めて調整の上、最終的に確定をさせていただいております。

今後のスケジュール感でございますけれども、最終的には主務大臣が責任を持って評価を行うということで、8月末頃を目途に関係府省のそれぞれの審議会の結果も踏まえまして、一つの評価書として主務府省、4省連名でJAXAに通知、公表するとともに、先ほどありましたように、見込評価と組織の業務内容の見直しにつきましては、総務省が所管します独立行政法人評価制度委員会へ通知するという手続になってございます。

以上のような意見調整を経まして、改めて公表させていただくタイミングでは皆様にも事前に御連絡はさせていただきたいと思っております。年度、それから見込評価ということではJAXA分科会としては、これで御審議いただいたということになりますけれども、また秋以降、次の中長期目標の策定という作業がございます。それにつきまして、また改めて御議論いただく予定でございますが、日程につきましては、改めて調整をさせていただきますのでよろしくお願い申し上げます。

山川分科会長 ありがとうございます。
それでは、これで終わりたいと思います。
ありがとうございました。